

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会の勉強会（対話会）概要

平成27年11月 4日

地域の会事務局

目的

リスクに基づくリスクコミュニケーションの枠組みについての基礎知識についてご理解頂くため。

日程

18:30-19:00 リスクコミュニケーションについての基礎知識

19:00-19:05 休憩 および対話内容についての確認

19:05-20:15 対話会（下記テーマにそって）

20:15-20:30 各委員の所感およびとりまとめ

対話テーマ 【原子力防災計画におけるリスクコミュニケーション】

原子力発電所の過酷事故時の対応について、リスクアセスメントとリスクコミュニケーションを通じて、リスク評価の不確実性について学ぶ。そして、その過程で地域住民の一般的な理解度や不安感について理解し、今後どのような対応が住民・自治体・発電所に求められるかについて整理する。

1. 過酷事故時の周囲への放射性物質飛散予測はなぜ難しいのか？

SPEEDIに代表される放射性物質の拡散予測シミュレーション結果を活用して、避難経路の策定などに速やかに活用しようとの取組みが提案されているが、それは困難であるとされている。なぜ難しいのか、地域住民としてどのようなリスクが存在するのかを理解することを目指す。

- 地域住民が拡散予測シミュレーションでどのような情報をどの程度の水準で求めているのかを整理する。
- 現在の拡散予測シミュレーションで、対応可能なことと/対応不能なこと/不確実な点を整理する。
- 地域住民に、拡散予測シミュレーション結果の位置づけとリスクについての説明をどのように行うことが望ましいかを議論する。

2. 地域住民は過酷事故時の避難におけるリスクをどの程度把握しているか？

原子力災害時の防災計画素案では、PAZ（即時避難地域；5km以内）内の地域住民を避難させ、UPZ（緊急時防護措置準備区域）内の住民は屋外退避の後段階的に避難することが定められている。一方で、立地地域周辺においてすら、避難計画の詳細

（裏面へ続く）

を把握していないことが懸念されている。原子力災害発生時の避難行動におけるリスクについて整理する。

- 原子力災害発生時の、PAZ（即時避難地域）からの避難方法を整理する。
- 原子力災害時に、地域住民としてどのような情報が必要とされているかを議論する。
- 情報伝達や避難行動におけるリスクを検討したうえで、どのような対応を事前に行うことが求められているかの整理を行う。

3. 地域住民への情報提供は信頼されるか？（時間が余った場合）

原子力災害時に地域住民が情報伝達に対して期待される行動を取らないリスクについての検討を行い、課題を整理する。

大塚 雄市講師のプロフィール

学歴

2004.4-2007.3 九州大学大学院工学府機械科学専攻博士課程(博士(工学))

2002.4-2004.3 九州大学大学院工学府機械科学専攻修士課程(修士(工学))

1998.4-2002.3 九州大学工学部機械工学科(学士(工学))

1995.4-1998.3 長崎県立長崎東高等学校

職歴

2014.4.1-(現在) 長岡技術科学大学 システム安全系 准教授

2012.4.1-2013.3.31 長岡技術科学大学 システム安全系 講師

2008.4.1-(現在) 長岡技術科学大学安全安心社会研究センター（兼任）

2007.10.2-2012.3.31 長岡技術科学大学産学融合トップランナー養成センター
産学融合特任講師

2007.4.1-2007.9.30 九州大学大学院工学府機械科学専攻 学術研究員

研究分野

機械材料・材料力学，生体材料学，社会・安全システム科学